高年女子の頸部形態

古松弥生 ○山口典子 尾崎淳子 齊藤栄子 (十文字短大・家)

Characteristics of Young and Old Female Neck Base Form

Yayoi Furumatsu, ○Noriko Yamaguchi, Atsuko Ozaki, Eiko Saitou
(JUMONJI JUNIOR COLLEGE)

はじめに：本研究は、衣服の型紙設計のための基礎的研究として、高年女子の頸部形態を把握することを目的とした。身体計測を行い計測した身体計測値および立体的断法¹⁾により採取した近似体表展開図を資料とした。調査対象は、東京都および東京に近い埼玉県に在住する63-87歳の健康的に生活している女子である(1988年11月-1989年7月調査実施、111名、平均年齢70歳8ヶ月)。またコントロールとして、18-20歳の健康な女子大学生を選び同様な調査(1987年6-7月実施、115名、平均年齢18歳9ヶ月)を実施した。近似体表展開図から60項目を測定し、今回は、その中から頸付根に関係する測定値7項目(図1)を選んだ。身体計測値 3項目、指数 3項目、測定値および測定結果を用いて計算した指数 9項目計22項目について、若年女子と比較した。結果：①身体計測値 3項目、指数 3項目により(図2)、高年女子の体形を概観すると、若年女子と比較して、身長が非常に低く、胸囲、頸付根囲が大きい。胸囲に対する頸付根囲の割合は若年女子と同じであるが、身長に対しては極めて大きい。身長の割に胸囲は非常に大きい体形である。

②近似体表展開図より測定した 7項目の測定値を若年女子と比較した結果はつぎのとおりである。項目番号13を除くすべての項目に有意差があり、項目番号 3, 4, 27, 29は高年女子が優位、項目番号14, 28は若年女子が優位である。すなわち、頸付根囲は、高年女子が

大きい、頸付根囲の後ろは、若年女子より小さく前は極めて大きい。高年女子は、後右横径は小さく前右横径は大きい。項目番号3が大きく項目番号 13が同じであることか

図1. 近似体表図から測定した項目番号

図2. 高年女子と若年女子の体形の比較
基準線：若年女子

図3. 測定値7項目の高年女子と
若年女子との比較
基準線：若年女子

図4. 指数9項目の高年女子と
若年女子との比較
基準線：若年女子

ら頸付け根の前後径は前方が大きいと推察される(図3)。

③測定項目の指数を観察すると、項目番号4/14、27/29、13/14、3/29の4項目は高年女子が優位、13/3、14/3、28/29、4/3、14/29の5項目は若年女子が優位の、すべての項目に有意差がある。すなわち、高年女子は若年女子に比べて、頸付根囲の割に頸付け根の前方が非常に大きく後方が非常に小さい。頸付根囲の割に頸付根前後径の前方が大きく後ろ横径が非常に小さい。頸付根前後径の前方が大きい割にその後方や横径が小さいこと、後の横径の割に前の横径や前後径の後方が大きいことが推察される(図4)。以上のことから、高年女子は若年女子と比較して、非常に異なった頸付け根の形態を持っていると思われる。

④高年女子の身体計測項目および計測値か

図5-1. 高年女子の4/3と14/3の分布

図5-2. 若年女子の4/3と14/3の分布

らの指数の変異は、若年女子と比べて変異係数が大きい傾向が見られたが²⁾、今回用いた頸付け根に関係する体表展開図からの測定値および指数 計16項目の変異係数は高年女子・若年女子間に、あまり大きな差が見られず、また変異係数の大きい項目で、若年女子の方が大の項目もあり、高年・若年ともに頸部の形態は個人差が大きいようである。

⑤相関係数については、指数2項目間の相関係数は、項目番号13/14との相関を除き、いずれも高い相関を示す傾向がある。分布を観察すると高年女子の方が若年女子よりも分布の範囲が狭い傾向がある(図5-1、5-2)。

引用文献

- 1) 松山容子ほか：立体裁断法による胸部体表形態の把握(第1報)，家政誌 31巻：747-751頁，1980
- 2) 古松弥生：高年女子の身体形態特性表現法の検討，昭和医学会誌 51巻：6号，1991